

青木村消防団広報

KODAMA

発行/青木村消防団 〒386-1601 長野県小県郡青木村大字田沢111 TEL.0268-49-0111
発行責任者/小林忠彦 編集/青木村消防団本部班

No. 35

発行：令和5年2月1日



令和4年度青木村消防団役員と退団者の皆様



令和五年青木村消防出初式 式辞

団長 小林 忠彦

新春を迎え、歴史と伝統を誇る青木村消防出初式が、ここに盛大に挙行できます事は、皆様と共に喜びとするところでございます。団員各位とご家族の皆様に対しまして、日頃のご活躍とご苦労に深く、感謝申し上げます。また、御来賓の皆様におかれましてはご多忙の中ご臨席賜り誠にありがとうございます。

さて、近年の災害の傾向をみますと、火災件数は減少傾向にありますが、自然災害に関する災害が多くなつてきております。特に大雨による災害が増え、線状降水帯が発生した場合短時間で大雨が降り、その被害は甚大であり、かつ全国各地どこでも起きうる災害となりました。地震災害におきましては、比較的地震が起きないと言われている地域でも起こり、私たち青木村におきましても例外ではございません。当村周辺には糸魚川断層構造線と呼ばれる断層があり、その断層による地震が発生した場合、青木村の震度は、震度七が想定されております。

日本は古来より自然災害の多い国であり、今後自然災害は必ず起こります。私たちの先祖は、自然災害と向き合いながら歴史を刻んできております。自然災害を学ぶ事、災害が起きた時どのように対応するのか、今この平時に何ができるのかを、考えることが大切であると考えております。例えば青木村で線状降水帯を伴う大雨が発生した場合、私たちが出来ることといえば、何があるでしょうか。私は命をつなぐことが重要なことであると思います。小規模な水路の越水であれば、土壌積みなどで対応できるかもしれません。しかし土石流災害ともなれば、人間の力は無力です。しかしそのような時我々消防団が出来ることは、危機的状況を住民の皆様にお伝えし、避難誘導をする事。常日頃ハザードマップ等で危険

箇所を把握し、地域住民の生命・身体を守ることが最重要であります。命があればそのあとの事はそれほど考えればよいのです。地震についても、常日頃の準備がとても大切です。我々が行わなくてはならない事は、まず団員同士のコミュニケーションを密にし、自分たちの地域をよく知っておくことが大切です。歴史は繰り返すといいますが、過去から学び、常に新しいことを考えていきましょう。

ところで、少子高齢に伴う消防団員減少はとても大きな課題ですが、まず団員の皆さんが平時の活動において、「楽しみながら活動をする事」がとても重要であると思います。団員の皆さんが楽しく活動が出来、活動してよかったといえる消防団が今必要です。そのためには皆さんいろいろと話し合ひましょう。意見を出し合ひましょう。団員の皆さんが声を上げやすい環境づくりに努めてまいりたいと思ひます。

また本日お越しの御来賓の皆様には、当消防団に対し引き続きご協力とご指導ご鞭撻をお願い致します。我々も上小地域の安心・安全の為、努力をして参る所存でございます。

さてここで本日は長年消防団活動に御尽力された退団者の皆様をご紹介します。杵掛啓二前団長をはじめ、団本部、分団本部の要職を歴任された皆様、団員として常に前線に立ち続けて頂いた皆様です。長年に渡り当村の安心安全の為、御尽力を頂き、ありがとうございます。そして、大変お疲れ様でした。今後ともご協力とご指導を宜しくお願いいたします。

最後に我々青木村消防団は「自分たちの村は自分たちで守る」郷土愛護の精神を胸に精一杯立ち向かってまいります。

結びに、本日ご臨席を賜りました来賓の皆様、並びに団員各位とご家族の益々のご健勝・ご多幸をまた、青木村の無火災・無災害をご記念申し上げ、式辞と致します。

一年間の活動を振り返って



副団長 中澤 運仁
村民の皆様には日頃より消防団活動にご理解とご協力を賜りまして深く感謝申し上げます。

本年度は火災・災害の少ない年で、コロナ禍の中ではありますが多くの訓練が出来ました。操法・ラッパ吹奏大会を発表会の形で行い、十月には消防団としては初の上田市消防団との合同訓練を行い色々と勉強になり今後も継続できたらと考えております。

今後は大雨等の自然災害が多くなると考えております。消防団だけでは対応しきれないところが出てきますので、今後とも皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



本部長 増田 佳樹
本部長を拝命してから間もなく一年が経とうとしています。

他の同年代の団員と比べて経験が浅い自分がこの立場にいることに大きな不安がいつもありました。が、団長はじめ本部役員そして両分団長のバックアップのおかげでなんとかここまでやってこることが出来ました。

コロナ禍になってから思うような活動ができない中ですが、6月にポンプ操法・ラッパ吹奏発表会、

10月には上田消防団・青木村消防団合同訓練を行うことが出来たことは大きな経験と財産になり、新たな試みの第一歩になったのではないかと思います。

最後に、村民の皆様のお力添えと何よりも団員のご家族の皆様のご理解とご協力が必要となります。時には時間間わず出勤しなければならぬ時もあるかと思いますが、村の安心安全を守るために団員力を合わせて頑張っておりますので、引き続きご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



水利救護長 堀内 巧
本部役員として団を運営する立場となり、約二年がたちました。今なお続くコロナ禍により消防団活動の制限や、計画・準備していた訓練が中止になることもありました。が大変多くのことを学ぶことができました。

本年度をもつて消防団は定年となり、長かった消防団活動にひとつ区切りがきます。再入団や協力員としての活動もまだ続いています。が、団員減少により消防団の活動は年々厳しさを増しています。村民の皆様には引き続き、より一層の温かい目で消防団を見守っていただけますよう、ご理解ご協力をよろしくお願い致します。



ラッパ長 山浦 正志
音楽には言葉を超えた力がある。そう実感した一年だった。

ラッパ隊の面々と顔合わせの日。所属も年齢も違うからか、皆どこか気恥ずかしい様子だった。練習を重ねるうちに空気が変わった。培ったチーム力は有事の際に活躍できると確信している。

活動自粛の中、消防ラッパは必要なのか自問自答することもあった。団員が減少している今、気持ちで負けそうな時こそ、ラッパの音色が必要である。なぜなら私自身、ラッパ隊の皆に励まされ、この大役を全う出来たからである。



整備長 横澤 忠盛
村民の皆様には、日頃より消防団活動に対し深いご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

今年度は警備長として消防団の業務に携わらせて頂きました。右も左も分からない状況から始まりましたが、小林団長、中澤副団長をはじめとする諸先輩方のご指導、本部班や各分団の皆様のご理解とご協力をもちまして微力ですが任務を遂行できた一年であったと感じております。特に秋に行われました、上田市消防団との合同訓練におきましては又とない経験をさせて頂きました。

最後に、今後とも村民の皆様

安心安全な村づくりのため精進して参りますので、引き続き村民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



機関長 小林 和利
村民の皆様には、日頃より消防団活動に対し深いご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

今年度は本部役員として消防団を運営する立場で、この一年活動をさせて頂きました。昨年度に引き続き今年度もコロナ禍により、消防団活動が大きく制限され中止となる活動もありました。そんな中、訓練発表会やリモート会議、上田市との合同訓練など新しい活動に挑戦できた一年にもなりました。

最後に、今後とも安心安全な村作りの為、消防団一丸となり精進して参りますので、宜しくお願ひ申し上げます。



第一分団長 佐藤 光一
村民の皆様には、常日頃より消防団活動に対し深い御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。

消防団員の確保が難しい状況が続く、消防団活動自体が危ぶまれて来ているなかで、再入団制度で再入団された皆様には感謝申し上げます。



第二分団長 西澤 英男
本年度第二分団長として任命され、一年間を振り返ると、例年とは違う活動で、苦悩や楽しさ新しい知見等、たくさん事を学び得る事ができました。

第二分団は、七地区体制からなり、それぞれの地区で風土が違い、戸惑いや不安がありました。が、分団幹部の協力を得て、スムーズに遂行することが出来ました。また、コロナ禍の中、行事が多々中止になり、顔を合わせていない団員もいますが、部ごとの活動でご尽力され、感謝の意を表したいと思います。

最後になりますが、退任まで二カ月程あります。消防団活動で培った事を再認識し、日々活動していきたいと思ひます。